

溶接構造シンポジウム講演論文集の原稿執筆要領

溶接大学工学部材料工学科 ○溶接 太郎
接合(株)技術開発センター 構造 次郎

Instructions for the Preparation of Manuscripts

by Taro YOSETSU, Jiro KOZO

1. 緒言

ここには溶接構造シンポジウム講演論文集の原稿を作成するために必要なレイアウトやフォント等の書式が記述されています。本講演論文集は投稿された原稿(PDF ファイル)をそのままオフセット印刷しますので、ここに記載されている事項に従い、原稿を作成してください。

原稿はA4紙に1段組で執筆下さい。学会で特別な用紙は用意しません。上下左右ともにマージンは2cmとします。本文は48文字×50行程度の横1段組とします。文字サイズは、タイトルなどを除き、基本的に明朝10ptを用いて下さい。行間は約14ptで作成して下さい。

原稿の長さは、お申し込み時に分類I(研究発表的/速報的な性格のもの)を指定された方は4ページ以内、分類II(論文発表的な性格のもの)を指定された方は8ページ以内として下さい。

なお、英文で原稿を作成されても結構です。英語版の執筆要領はありませんが、和文の本書式に準じて下さい。

2. 書式

2.1 タイトルページ

タイトルページの1行目のみに、上の例のように左詰めで「溶接構造シンポジウム 2006 講演論文集(2006 年 11 月)」と明朝9ptで記入して下さい。なお、2ページ目以降は不要です。その後1行あけて、タイトルは1ページ目の3行目からゴシック体14ptを用い、センタリングして下さい。1行あけて、著者の所属と氏名を明朝12ptを用いてこの例のように書いて下さい。著者が複数の場合、上の例のように講演者の氏名に○を付けて下さい。1行あけて英文タイトルをTimesの12ptでセンタリングして書いて下さい。さらに1行あけて著者名をこの例の通り英文でTimesの12ptでセンタリングして書いて下さい。

2.2 本文

英語著者名の後、2行あけて本文を記述します。

2.2.1 見出し

見出しのレベルは章、節、項の3段階とします。章は1., 2., …のように、節は1.1, 1.2, …のように、項は1.1.1, 1.1.2, …のようにして下さい。いずれもゴシック体とし、章は12ptで、節、項は本文と同じ10ptで書いて下さい。章の区切りには1行をあけるものとし、節、項の区切りは特に読みにくくしなければこの例のように1行あける必要はありません。

2.2.2 数式

式番号は(1), (2), …のようにカッコ付きの通し番号として、式番号は右詰めで記入して下さい。本文中の引用は式(1), 式(2), …のように書いて下さい。特に読みにくくしなければ数式の前後に1行あける必要はありません。

2.2.3 図表

図表は、本文で引用した箇所に近い場所に挿入して下さい。図表の前後には空白行を1行設けて下さい。図表のキャプション及び図表中の説明などは英語とし、Fig.1, Fig.2, …及びTable 1, Table 2, …のように通し番号を付け、本文中の引用もFig.1, Fig.2, …及びTable 1, Table 2, …として下さい。写真の場合もPhoto.○は用いず、Fig.○に統一して下さい。キャプションは本文と同じTimesの10ptとして下の例のようにお書き下さい。オフセット印刷しますので、鮮明な図表や写真を用意下さい。

(例) Fig.1 Experimental apparatus

Table 1 Chemical compositions and mechanical properties

2. 2. 2 単位

単位の記法は S I 単位にならして下さい。

2. 3 参考文献

本文の文末に空白行 1 行を設けてゴシック体 10 p t で「参考文献」と記入した後、1), 2), …のように本文中の引用の順序にならべて記載して下さい。なお、溶接学会論文集の投稿規定の改訂(2002 年 4 月より施行)にともない、溶接構造シンポジウム論文集においても今回より下記のように英文表記といたしますのでご留意下さい。ただし、出展名が英文で記載されていない場合は和文表記でも結構です。過去の本シンポジウム講演論文集の引用も和文表記で結構です。本文中の引用はこの例¹⁾のように右肩に付して下さい。(略記)

略記が使われる場合に、溶接学会誌は J.JWS, 溶接学会論文集は Quar.J.JWS, 溶接学会全国大会講演概要集は Prep.Nat.Meet.JWS とします。その他についても同様とします。また、略記でなくとも結構です。(例)

参考文献

- 1) K.Shiozaki, Y.Nakao and H.Kuroki: Bonding Phenomena and Mechanical Properties of TLP-bonding Joint of Fe-base ODS Alloy, Quar. J. JWS, 14-1 (1996), 129-136. (in Japanese)
- 2) G.M.Evans : The Effect of Carbon on the Microstructure and Properties of C-Mn All-Weld Metal Deposites, Weld.J.,62-11(1983),313s-320s.
- 3) H.Kaneko: 金属熱処理原論, Maruzen (1971), 131. (in Japanese)
- 4) H.Hiramatsu, K.Michiba and A.Mizuta: Improvement of Adhesive Strength of Single Lap Joints by Increasing Rigidity, 溶接構造シンポジウム'99 講演論文集, (1999), 469-476. (in Japanese)

3. PDF ファイル作成について

本講演論文集は投稿された原稿 (PDF ファイル) をそのままオフセット印刷しますので、以下に記された事項に従い、PDF ファイルを作成して下さい。

- 1) PDF 形式の原稿のみ提出可能。
- 2) 必ず、フォント埋め込み形式で作成する (文字化け防止のため)。
- 3) 原稿を PDF 形式に変換する際、画像の解像度は、600dpi 程度にする。
- 4) PDF ファイル作成のためには、PDF ファイル作成専用ソフト Adobe Acrobat 5.0 以上をご利用下さい。
- 5) MSP 明朝および MSP ゴシック OCF フォントは使用不可。
- 6) PDF 形式変換後は 1MB 以下。

4. 表彰について

本シンポジウムでは、分類 I, I I にかかわらず、優秀な講演論文 (または講演者) に対し、溶接学会より溶接学会シンポジウム賞 (論文賞) の表彰と、溶接構造研究委員会より奨励賞の表彰を行います。奨励賞の対象は講演者個人となりますので、本原稿に講演者の指定がない場合や当日講演者が交代した場合などは表彰の対象外となります。やむを得ず講演者を交代する場合には、できるだけ早く事務局幹事の芹澤 (TEL:06-6879-8665, FAX:06-6879-8645, E-mail:serizawa@mapse.eng.osaka-u.ac.jp) までご連絡下さい。

表彰審査のため、提出期限に遅れた原稿は表彰の審査対象外といたしますので予めご了承下さい。

5. 溶接学会論文集へ投稿される場合の注意

分類 I I で申込、執筆された方には、本シンポジウム終了後に、本原稿を直接投稿する (投稿論文の本文にかえる) ことができるようになりました。ただし、溶接学会投稿規定に従いますので、原則として溶接学会正会員に限られ、また国内外の他の刊行物に未投稿の物に限られます。原稿は溶接学会の論文査読・審査委員会における査読により採否が決定され、審査結果によって修正・削除などを要求されることがあります。

溶接学会論文集への投稿を希望される場合は、本原稿の他に以下のものを提出する必要があります。

- 1) 表紙
- 2) 300 語の英文概要と 5~10 語の英語のキーワードを A4 別紙に記入したもの
- 3) 図表名一覧リスト
- 4) 図表については別途大きなもの (印刷時の縮尺を併記のこと)
- 5) テキストファイル (MS-DOS 形式) にしたフロッピー (機種名、ソフト名、ファイル名を明記の上、それをプリントアウトしたものを添付)。

提出部数は3部（正1部，副2部）です。また，投稿の際，「溶接構造研究委員会主催 溶接構造シンポジウム 2006 にて発表（2006年11月〇日）」と必ず併記下さい。その他，詳細は溶接学会に直接お問い合わせ下さい。また，原稿の提出先は本シンポジウム幹事ではなく，溶接学会宛です。

なお，溶接学会論文集の発刊が平成19年1月からWEB版に変わるため，溶接学会投稿規程と執筆要領が変わります（平成18年9月1日論文受付分より施行）。改訂後の投稿規定ならびに執筆要領をご参照の上，投稿頂きたく，宜しくお願ひ申し上げます。溶接学会投稿規程および執筆要領は，下記の溶接学会ホームページよりダウンロードして下さい。

溶接学会ホームページ：<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jws/>